

[普及事項]

新技術名：サンリット水和剤の開花期散布によるオウトウ幼果菌核病防除（平成15年）

研究機関名 果樹試農場環境部病害担当
担 当 者 佐藤 裕・深谷 雅子

[要約] サンリット水和剤（シメコナゾール水和剤）はオウトウの開花期間中に散布すると、幼果菌核病に対し高い防除効果を示す。本剤は灰星病にも効果が高いことから、開花期に使用すると、灰星病による花腐れと、幼果菌核病による幼果の腐敗を同時に防除することができる。

[ねらい]

オウトウ幼果菌核病は、展葉期から開花期に連続した降雨があると発生し、幼果の腐敗を引き起こす。本病に対しては卓効を示す防除薬剤が無いことから、有効な薬剤を検索するとともに効果的な防除方法を明らかにする

[技術の内容・特徴]

- 1．サンリット水和剤2,000倍を開花期間中に散布すると幼果菌核病（図1）に対する高い防除効果が得られる（表1）。
- 2．本剤は灰星病に対する登録もあり、開花期間に散布することにより灰星病による花腐れ防止効果も期待できる。
- 3．本剤の2,000倍散布はリンゴの黒星病、赤星病、うどんこ病、モニリア病、および褐斑病、またモモ灰星病に対しても登録があることから、リンゴ、オウトウ、モモの樹種複合栽培園での使用が可能である。

[普及対象範囲]

県内オウトウ栽培地域

[普及上の留意事項]

- 1．本剤は本県の防除基準にオウトウ殺菌剤として平成17年度採用を予定しており、現在展示圃試験を実施中である。
- 2．本剤はEBI剤であり、同系統の薬剤を多用することによる耐性菌出現の恐れがあるので、使用にあたっては系統を異にする薬剤とのローテーション散布を心がける。

[具体的なデータ等]

表1 サンリット水和剤の開花中散布によるオウトウ幼果菌核病の防除効果

	薬 剤 名	
	サンリット水和剤 2,000倍	トップジンM水和剤 1,000倍
調査短果枝数	309.5 *	440.5
発病率(%)	1.3	11.4
1 樹平均発病果数	37.5	129.0

* : 数字は2反復の平均値

試験場所：湯沢市三関現地圃場

供試品種・樹齢：佐藤錦・16年生（アオバ台） 試験区：1区1樹2反復

散布月日：平成14年4月25日（満開前日）、5月1日（満開5日後）；試験前は無散布

散布量：約25リットル/樹

調査月日：短果枝の発病調査；5月16,17日

果実発病調査；5月20～22日（試験樹の全発病果を摘み取って計数した）



図1 オウトウ幼果菌核病の発生状況

[発表文献等]

なし